

Vol.92

Vol.92 (2022年 秋号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Column / 組織	3
Best Practice and Competence / PM 事例・知識 ...	7
Activities / 支部活動	12
Stakeholders / 法人スポンサー紹介	15
PM Calendar / PM カレンダー	17
Fact Database / データベース	18
Editor's Note / 編集後記	22

Column / 組織

◆新任理事ご挨拶	3
PMI日本支部 理事 戦略運営委員会、女性コミュニティ担当	小川原 陽子
PMI日本支部 理事 教育国際化委員会、会員サービス委員会担当	永合 由美子
PMI日本支部 理事 ミッション委員会、地域サービス委員会担当	保井 俊之
PMI日本支部 理事 標準化推進委員会、組織拡大委員会担当	渡辺 敏之
PMI日本支部 理事 教育国際化委員会、国際連携委員会担当	稲葉 涼太
PMI日本支部 理事 コミュニティ活性化委員会、財務委員会担当	有坂 寿洋
PMI日本支部 理事 会員サービス委員会担当	鬼東 孝則

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

◆千葉工業大学におけるCAPM®試験対策講座の取り組み事例について	7
千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 准教授	西田 絢子
◆委員会・部会活動内容紹介	9
・地域サービス委員会	
地域サービス委員会 担当理事	千葉 昌幸

Activities / 支部活動

◆PMI日本フォーラム2022 結果報告	12
----------------------------	----

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

・フラッグス株式会社	15
------------------	----

PM Calendar / PMカレンダー

・PMI日本支部関連セミナー等	17
-----------------	----

Fact Database / データベース

Editor's Note / 編集後記

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Office の商標又は登録商標です。

Column / 組織

新任理事ご挨拶



戦略運営委員会、
女性コミュニティ 担当

小川原 陽子 (おがわら ようこ)

日本アイ・ビー・エム株式会社
公共・通信メディア公益サービス事業部
アソシエイト パートナー

はじめまして。2022年3月からPMI日本支部の理事を拝命いたしました小川原陽子です。

私は、所属する日本IBMでヘルスケア分野のお客様にシステムの提案、導入、保守を行うプロジェクト・マネジャーを担当してまいりました。また、社内でのプロジェクト・マネジャー職のキャリアを支援するコミュニティのリーダーとして、認定制度の運営、教育プログラムの提供を行っています。

私とPMIとの出会いは、トラブルプロジェクトをきっかけに自己流でなく体系だったプロジェクトマネジメント知識の必要性を再認識し、PMPの資格を取得したことに始まります。以降、法人スポンサー企業の代表としてPMI日本支部やAPと連携し、プロジェクトマネジメントのエンゲージメント強化に取り組んでまいりました。

今年度、私は理事として戦略運営委員会と女性コミュニティを担当いたします。戦略運営委員会はPMI日本支部の各種施策を立案し、活動を組織し、成果をモニターする中核組織です。この活動を通し、プロジェクトマネジメントを発展普及させるというPMIのミッションに貢献してまいります。女性コミュニティは今年新たに立ち上げられた活動であり、定例会やイベントの企画運営を行い、女性リーダーのネットワークと活躍を後押ししています。今後は、日本支部の複数の部会とコラボしたSGDsに関するイベントを行う予定ですのでぜひ注目いただければと思います。

市場は非常に早いスピードで変化しており、私たちプロジェクト・マネジャーが活躍する機会が拡大していると同時に、必要とされるスキルも大きく変化しつつあります。アジャイルをはじめとする新たなアプローチにも対応し、学び続け、組織の枠を超えて世の中のイノベーションを実現することが求められています。今後は、これまでの経験を活かし、一人一人がプロジェクト・マネジャーとしての価値を高め、社会や組織に貢献することを後押しするPMI日本支部の活動に尽力したいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



教育国際化委員会、
会員サービス委員会 担当

永合 由美子 (なごう ゆみこ)

東京大学国際オープンイノベーション機構 プロジェクト・マネジャー
特定非営利活動法人日本女性技術者科学者ネットワーク (JNWES)
副代表理事
特定非営利活動法人女子中高生理工学系キャリアパスプロジェクト
(GSTEM-CPP) 代表理事
日本女性技術者フォーラム (JWF) メンター部会長

2022年3月にPMI日本支部の理事を拝命した永合由美子です。

所属する東京大学では、産学連携を推進する国際オープンイノベーション機構でプロジェクト・マネジャー（2022年現在、AI・情報分野と地方創生プロモーション業務を担当）を務めながら、NPO活動にも注力しています。PMI日本支

部では、会員サービス委員会、教育国際化委員会に所属するとともに、女性コミュニティにも参画し、先輩方を見習いながら勉強中です。

PMIやPMI日本支部での活動についてはこの度初めて参加させていただきますが、会員の皆さまや事務局の方々がとても精力的に活動され、まさにプロジェクト・マネジャーとして支部のお仕事にも取り組んでいる姿に刺激を受けています。

私自身は、女性技術者のコミュニティを通じたキャリア形成、次世代に向けた理工系分野の魅力発信、地域活性化活動への関心が高く、継続的に取り組んでいます。日本女性技術者フォーラムでは20年以上、現NPO法人女子中高生理工学系キャリアパスプロジェクトでは法人化前から15年間の活動実績があり、同志との企画運営を通じた学びを楽しんでいます。

Column / 組織

■新任理事ご挨拶

2021年6月より、富山県女性活躍推進（専門）コンサルタントとして女性社員のモチベーションアップセミナー等を手掛けています。地方のものづくり中小企業の業務実態や女性登用が進まない現状にも危機感を抱き、慣性力の高い日本の岩盤にどう挑戦するか、試行錯誤中です。

プロジェクトマネジメントとして明確に認識評価されていないものの、その考え方やメソッドでアプローチできる課題

は多く、特にPMI日本支部の外との連携を強化することで、生産性向上や働きがいアップ、関わる人々のハッピーを増やしたいと考え、活動に加わりました。これまでのネットワークやフットワークを生かし、パッションを持って取り組む所存です。

今後、委員会やコミュニティ活動を通じて、日本支部のさらなる活性化に貢献できればと思っています。



ミッション委員会、
地域サービス委員会 担当

保井 俊之 (やすい としゆき)

叡啓大学
ソーシャルシステムデザイン学部
学部長・教授

みなさま初めまして、2022年4月に理事に選任いただきました保井と申します。

10年ほど前にPMPを取得しPMI日本支部の主要行事に欠かさず参加してまいりましたが、理事としてPMI日本支部の活動に関与するのは初めてで、感謝とともに学ばせていただいております。

わたくしは、これまで主として、財務省及び金融庁をはじめとする霞が関の省庁で、公共政策プロジェクトの企画・立案に35年間携わり、政府系地域活性化ファンドのREVIC及び中南米向け国際金融機関のIDBに近年勤務したことを契機に、社会をより良く変えていくソーシャルなプロジェクト、特に広い意味での「おカネ」の好循環を創るプロジェクトの大切さを深く認識いたしました。

また、2008年に開学した慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科（SDM）において、システム思考、デザイン思考及びプロジェクトマネジメントの研究と教育に携わり、社会システムデザインの目的としての、ウェルビーイング（心の幸せ）をプロジェクトマネジメントする意義を強く感じておりました。

2021年4月に開学した、日本初のソーシャルシステムデザイン学部を擁する広島県立叡啓大学において、大学の立ち上げプロジェクトとそれを軌道に乗せることに全力を注ぐとともに、社会システムデザイン、社会イノベーション、主観的ウェルビーイング、金融、公共政策、対話理論及び地域活性化などの研究と教育に勤んでおります。

頻繁な自然とのふれあいは高いウェルビーイングと関連することが知られています。世界はすべて「グローバル」すなわちグローバル×ローカルの組み合わせで成立しており、かつてのわたくしの活動地域であった中南米もいま住む広島も、関与するみなぎ幸せのプロジェクトのポテンシャルに満ちています。この可能性を理事としての活動の中でご紹介し、PMI日本支部の活動に少しでも貢献させていただければと存じております。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



標準化推進委員会、
組織拡大委員会 担当

渡辺 敏之 (わたなべ としゆき)

日本プロジェクトマネジメント協会
資格推進部長
ヘンリー戦略PM技術士事務所

この度、理事を拝命しました渡辺敏之と申します。

PM研修講師業と並行して日本プロジェクトマネジメント協会（PMAJ）にて資格推進を担当しています。今回、PMAJとPMI日本支部との連携強化の一環として理事を務めさせていただくことになりました。PMAJからの理事としては2人目にあたります。

PMAJは日本からプロジェクトマネジメントを発信していくというミッションの下、2001年にP2M（Program & Project Management）という標準を発行しました。その後

Column / 組織

■新任理事ご挨拶

数回の改訂を経て、現在は改訂3版となっています。標準に合わせて、PMR（プログラムマネジャー・レジスタード）、PMS（プロジェクトマネジメント・スペシャリスト）、PMC（プロジェクトマネジメント・コーディネーター）というプログラム/プロジェクトのスキルを認定する資格試験も実施しています。

毎年9月に開催している国内最大級のPMシンポジウムを主催している協会でもあります。また、PMI本部との関係も長く、20数年来のREP、ATPにもなっていてPMI関連の研修やセミナーを提供しています。PMBOK® 第一版の日本語版翻訳を担当したのはPMAJだということをご存じの方も多いかと思います。

私自身は2009年にPMI日本支部会員となり、ポートフォ

リオ/プログラム研究会、PMタレントコンピテンシー研究会に参加して活動しています。また、会社員時代は法人スポンサーの人材育成スタディ・グループにも参加していました。これまでポートフォリオマネジメント標準、プログラムマネジメント標準、プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発フレームワーク（PMCDF）の翻訳やPMCDF副読本作成などの活動にも参加してきました。

理事の役割としては、組織拡大委員会（アフィリエイト・プログラム、他団体連携）、標準化推進委員会の担当となります。なじみのないPMI本部とのやりとりなどで面食らうことも多いですが、PMI日本支部の今後の発展に少しでも寄与できたらと考えています。

どうぞよろしく願いいたします。



教育国際化委員会、国際連携委員会 担当

稲葉 涼太 (いなば りょうた)

株式会社Flexas Z
ディレクター

この度、新任理事に就任しました稲葉涼太と申します。

本業は人事業務・人事システム（HR-Tech）のコンサルティング、顧客プロジェクトマネジメント支援、アジャイルコーチ、SDGs事業支援などを行っています。

また本業以外で、キャリアコンサルタントとして主にIT人材のキャリア構築支援や、SDGs普及促進のワークショップファシリテータ、国内大規模オンラインSDGsイベントの草分け『SDGsオンラインフェスタ』のマネジメントディレクター、各種プロボノでのプロジェクトマネジメントを通じたソーシャル・プロジェクトの推進などパラレルキャリアを実践しています。

PMI日本支部は2017年に会員登録し、2018年から部会活動に参加、ソーシャルPM研究会の副代表などを経て、SDGsスタートアップ研究分科会の部会代表に設立時から今

も継続して就いています。また、2019年よりアジャイル関連部会有志のコラボレーション活動の運営委員もしています。

今年度私は理事として教育国際化委員会と国際連携委員会を担当し、また今年から新設された「DAコミュニティー」も担当しています。

PMIの「PMI4.0」でも、プロジェクト専門家だけではなく学生、若者、起業家、ビジネスリーダなど「チェンジメーカーズ」と呼ばれる人達と連携したソーシャル・インパクトの実現が提唱されています。

これからのプロジェクト・マネジャーは経済価値だけでなく社会価値の向上も両立させ、本質的なアウトカムの実現が求められます。

私は、PMI日本支部での活動を通じ、学生や若い世代からシニア層まで広くプロジェクト・マネジャーやチェンジメーカーズのキャリア形成に貢献するとともに、ディシプリンド・アジャイルの普及促進、SDGs事業に即した方法論の確立と方法論を実際に活用するための普及促進、コレクティブ・インパクトの推進などを通じ、社会価値向上に貢献したいと思います。

会員の皆さまと楽しく価値実現のための活動をしたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

Column / 組織

■新任理事ご挨拶



コミュニティ活性化委員会、
財務委員会 担当

有坂 寿洋 (ありさか としひろ)

株式会社日立アカデミー
研修開発本部
担当本部長

皆さま、はじめまして。この度、PMI日本支部の理事を拝命いたしました(株)日立アカデミーの有坂寿洋と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私は1994年に(株)日立製作所の研究開発本部 機械研究所に入所以来、磁気ディスク装置(HDD)の位置決め制御機構技術の研究および製品開発や、さまざまな装置の振動制御技術開発を通してモノづくりや研究開発に主軸を置いてきました。2020年に日立グループの人財教育を担う現在の会社に移り、技術研修を通して若い技術者・研究者の成長をお手伝いし、またいくつかの大学にて将来の日本社会を支える技術者・研究者を見守る機会をいただいています。

そのような中で現在、日本の産業界のみならず学界、教育界は歴史的に醸成してきた大きな仕組みを見直さなくてはならない危機的な状況にあると考えています。事象や原因はい

くつか挙げられると思いますが、明治以来の教育システムにおいて自律的に学ぶ姿勢や仕組みが十分でない中で、コトを新たに生み出しそれを拡大していく方法論を体系的に学ぶ機会を多くの技術者、社会人が得られなかったことは、少なくともそのひとつの要因であると思います。

そこでプロジェクトマネジメント、ということになります。加えてPMI日本支部の活動に参加させていただくと、単に学びの場というだけでなく、異なる立場、組織の方との交流を通じて、新たな気づきが得られる場であることに感銘を受けました。

今後さらにグローバル化が進む社会において、より多くの人にPMの理解と実践が必要な一方で、使い古された言葉ではありますが資源の無い日本が技術立国として生き残るために、会員の皆さまが築き上げてきた日本の良さを生かしたPM文化がより重要になると思います。そして、さらなる価値の創造と、その活用能力の向上を図ることが、この状況を打破する原動力となることを期待しています。これまで得た知識や経験を十分に活かしながら、変化に激しい時代に対応すべく、関係各位のご支援をいただきながら、会員の皆さまに貢献するよう努力してまいります。



会員サービス委員会 担当

鬼束 孝則 (おにつか たかのり)

Ridgelinez株式会社
テクノロジーグループ
ディレクター

この度PMI日本支部理事を務めさせていただくこととなりました、鬼束孝則です。現在DX専門のコンサルティングファームであるRidgelinez株式会社に所属しています。

これまで私は20年間にわたりセミナープログラムにおいてセミナーの企画・運営に携わって参りました。そこで多くの会員・非会員の皆さまや講師の方々と触れる機会があり、プロジェクトの現場で起きていることや必要とされているもの、そして未来に取り組むべき課題を数多く知ることが出来ました。

プロジェクトは年々高速化が進み、その規模感も飛躍的に大きくなってきています。その中においてプロジェクト・マネジャーには常に成功することが求められ、やり甲斐とプレッ

シャーの狭間でプロジェクトマネジメントに尽力されていると認識しています。

プロジェクトマネジメントは大変難しくもあり、一方で楽しいものでもあります。また、プロジェクトが唯一無二であるのと同様にプロジェクト・マネジャーも唯一無二の存在で、同じ人間は誰一人いません。育った環境、知識や経験、立場など、全ての人は独自の思考を持ち、独自の行動を起こします。こうした違いを尊重した上で、プロジェクトの成功確率を高める手法やテクニック、知識をいかに共有しプロジェクトマネジメント界のアセットにしていくかが、後世で活躍される皆さまにとっても有益であろうと信じています。

私自身の活動が、微力ながら様々な世界の壁を超えて、全てのステークホルダーにとっての利益となるよう、日々努力してまいりたいと思います。

常に視点を変え、発想を見直し、続けていくべきもの・止めるものを見極め、人に優しく、テクノロジーを上手に活用しながら新しい取り組みにチャレンジしてまいります。

今後皆さまのお役に立てるよう誠心誠意尽くしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

Best Practice and Competence/ PM 事例・知識

千葉工業大学におけるCAPM[®]試験対策講座の 取り組み事例について

千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 准教授 西田 絢子

今回は千葉工業大学におけるCAPM[®]試験対策講座の取り組みについて紹介させていただきます。

■ 千葉工業大学とは？

千葉工業大学は習志野市にあり、東京駅からJR総武線電車で30分ほどの津田沼駅の駅前にあります。ご存知でない方もいらっしゃると思いますので、簡単に大学の紹介をさせていただきます。

1942年（昭和17年）に「興亜工業大学」の名称で現在の玉川大学内に誕生しました。その後、1946年に千葉県君津への移転を契機に「千葉工業大学」に改称し、1949年に津田沼に移転、元陸軍鉄道第二連隊施設の払い下げを受け、現在の津田沼キャンパスとなりました。

1986年に芝園キャンパス（現新習志野キャンパス）が完成し、以後新習志野キャンパスでは学部の1・2年生、津田沼キャンパスでは学部3・4年生及び大学院の教育を行っています。現存する私立の工科系大学としては日本で最も古い歴史を持つ大学です。^{[1][2]}

現在、5学部17学科と大学院5研究科があり、約1万人の学生が在籍しています。

■ CAPM試験とは？

CAPM[®]資格とは、PMP[®]の姉妹資格でありPMIホームページによると『CAPM[®]試験は、プロジェクト・チームメンバー、新人のプロジェクト・マネジャー、大学生、大学院を対象とした試験です。』^[3]とあるように、PMP[®]の受験資格では必須であった実務経験の申請が免除され、PMBOK[®]ガイドの知識で受験が可能です。大学生にとってプロジェクトの実務経験はなくても勉強してチャレンジできることも受験の動機となっています。

■ 講座をサポートするPPA組織とは？

本講座を実現するにあたり、一番の問題は学生にとって費

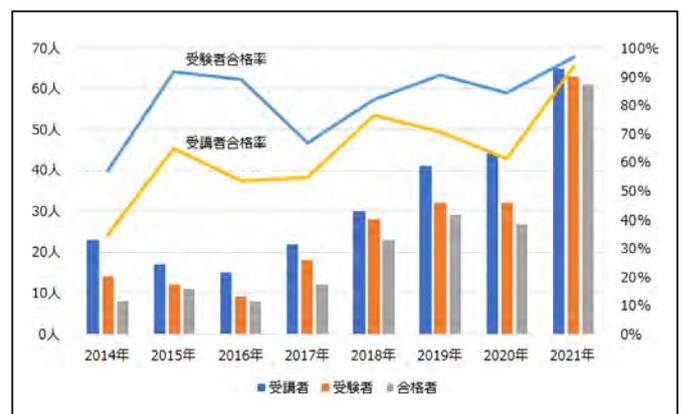
用が多くかかることです。受験料やPMBOK[®]の費用など学生にとっては負担がとて大きいです。受験料は自己負担ですが、講座費用と各自に配布するPMBOK[®]ガイドの書籍代金は補助金制度を活用しご支援いただいています。

CAPM試験対策講座は、本学の制度である「PPA特別教養講座」として実施しています。PPAとはParents and Professors Association = 父母（保護者）と教職員の会で、学生の教育と研究を支援していく目的で設立されました。CAPM試験対策講座は2014年より今年で9年目となり毎年ご支援いただいております。

■ CAPM試験対策講座の概要

千葉工業大学の中でもプロジェクトマネジメント学科とデザイン科学科の共催で企画・運営をしています。前期の授業が終わり、夏休みに入ったところに2学科の全学年を対象として募集し、1年生から修士2年生まで幅広く参加しています。図1は、活動を始めた2014年から2021年までの合格者の推移を表しています。昨年までの8年間で179名の合格者を出すことができました。講座の立上げ当初は参加者数も少なかったのですが、徐々に学生の口コミや合格者の実績がでてきたことで広がっていきました。今年は特に希望者も多

図1 受講・受験・合格者の推移グラフ



Best Practice and Competence/PM事例・知識

■千葉工業大学におけるCAPM®試験対策講座の取り組み事例について

く、申込み受付開始と同時に2分で満席となってしまいうほど人気講座となりました。

夏休み期間の3日間朝から晩まで缶詰めになってPMBOKの内容を理解することに重点を置いて取り組んでいます(図2)。学生は初めて見るPMBOKの厚さに驚きながらも、とても嬉しそうな表情です。プロジェクト経験が少なく、理解しなければならぬプロセスやツールと技法もたくさんあり、学生にとってもチャレンジングな体験です。しかし、純粋に知らなかった知識を得る機会を楽しんでいる様子を見て、講師や企画・運営側をしている教員もよかったと実感しています。

今年は7月25日～27日の3日間実施し、65名の受講者でした。現時点で40名の合格の知らせが続々と届いております。

図2 講座の様子



■学生がCAPMを取得する意義

コロナウィルスの影響もあり、大学生の日常も大きく変わりました。授業は対面からオンラインになり、サークルや飲み会、友達と会うことなど今まで当たり前でできていたことが制限されるようになりました。世界の不安定な情勢や不況のニュースを耳にするたび、就職活動に対して大きな不安を抱く学生が増えてきています。

CAPM資格を取得することで得られるメリットは、一番は「自分に自信が持てること」です。何かに一生懸命取り組み、達成できたという事実は就職活動でのアピールポイントにもなると思います。資格を持っているから内定をもらえるというのではなく、「なぜ?この資格を取得しようと思ったのか」を考え、自分の言葉で将来について語ることが採用につながるのではないかと思います。また、プロジェクトマネジメントの知識とスキルは、どの業種・職種でも必要なものであり、世界の人々と仕事を進める共通言語です。その重要性を企業

側も理解しているからこそ、益々CAPM®、PMP®ともにアドバンテージのある資格として認知されているのだと思います。

■最後に

この取り組みを始める9年前の企画段階では、学生にとってCAPM®の資格取得は難しすぎるのではないかと考えていました。企画してもやりたい学生がいなかったらどうしようか、誰も合格しなかったらどうしようかなどと心配もたくさんありました。実際に講座に手を挙げて参加する学生はモチベーションも高く、楽しそうに学んでいます。その様子を見て私たち教員ができることは、「私たち自身がやる気になること」と「学生へのチャレンジングな体験の機会を提供すること」、そして「成果が出るまで諦めずに継続すること」のように感じています。

図3は昨年度の合格者の写真です。毎年、合格者は認定書を持って記念撮影をしています。少しずつではありますが、就職活動の成果にもつながってきました。社会に出てプロジェクトをリードできる人材をこれからも育成していきたいと思っています。

今回はニューズレターの誌面にて本学の取り組みについて紹介させていただく機会を賜り重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

図3 2021年度CAPM合格者



■引用文献

- [1] 千葉工業大学ウェブサイト
<https://www.it-chiba.ac.jp/>
- [2] 千葉工業大学概要
<https://www.it-chiba.ac.jp/media/h26-kankyuu-03.pdf>
- [3] PMI日本支部 CAPM試験ウェブサイト
https://www.pmi-japan.org/pmp_license/capm/

委員会・部会活動内容紹介

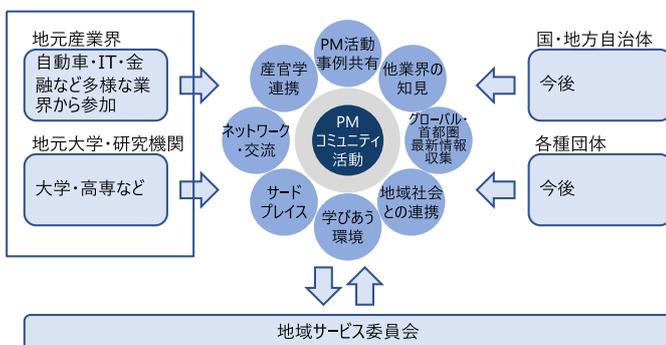
■ 地域サービス委員会

地域サービス委員会 担当理事 千葉 昌幸

1. PMI日本支部 地域サービス委員会とは

地域サービス委員会とは、PMI日本支部のミッションを担う戦略委員会のひとつです。地域の会員・PMPの方々のサービス向上やプロジェクトマネジメントの普及を担っています。地域サービス委員会はPMI日本支部の円滑な活動を推進するため、首都圏以外の地域に対するPMI日本支部サービス提供の企画・管理の役割を果たします。

- ▶ 地域コミュニティまたはブランチのサービス企画・施策立案を実施
- ▶ 地域施策の円滑な運営・活動に必要な事項の検討と実現のための調整や活動の推進
- ▶ 地域の活動状況につき、定期的な状況共有と、必要な提言
- ▶ 地域の活動に必要な規程を立案、改定し、理事会に提案
- ▶ 地域セミナーの開催を企画・運営し、地域コミュニティ活動を促進
- ▶ ブランチの設立、及び改廃について検討し、理事会に提案
- ▶ フォーラム・Festa・研究会等、リアルタイム配信／ネットワークミーティングによる首都圏・地域の一体化の促進



地域サービスの活動母体には地域コミュニティとブランチがあります。

地域コミュニティでの活動が発展し、ブランチ化することで、よりパブリックな活動体となって地域への影響力が増すことでネットワークの質・量が高まり、会員サービスの充実化につながります。

2009年	北海道コミュニティ設立
2009年	関西ブランチ設立
2015年	中部ブランチ設立
2020年	中国コミュニティの立上
2021年	九州コミュニティの立上
2022年	東海・富士コミュニティの立上
2025年	新ブランチの立上げ



2022年は3年ぶりに会場開催で地域セミナーを行う予定です。(次ページの表を参照)

2. 北海道コミュニティ紹介

2009年に北海道内に在住のPMP取得メンバーが、地方でPDU取得のための方策をみんなで考えようということで声がけをして、いくつかの企業からメンバーが集まり、勉強会の形式で始まりました。「北海道のPMピープル」という名称で活動をしています。

PMP取得メンバーに限らず、資格を目指す人、プロジェクトマネジメントに関心のある人なども加わり、現在に至ります。

現在の活動状況と今後の予定は次のとおりです。

- 札幌学院大学のプロジェクトマネジメント講義(7年目)
- 月一回の例会、勉強会(リアル、オンライン)
 - 1) 「行動経済学とプロジェクトマネジメント」
 - 2) 「知的財産権について考える」

Best Practice and Competence/PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

2022年度地域セミナー

※第2部の内容は調整中

地域	開催日時	会場	定員 (収容人数)	開催構成
北海道	10月15日(土)	札幌市民交流プラザ	15~20名	第1部 PMBOK®ガイド 第7版セミナー 第2部 ワークショップ
東海・富士	10月22日(土)	静岡商工会議所	15~20名	第1部 PMBOK®ガイド 第7版関連のテーマ 第2部 ワークショップ、またはPMBOK 関連の事例などの紹介 (地域特性の要素を入れる)
中部	11月26日(土)	ITI中部セミナールーム	15~20名	第1部 PMBOK®ガイド 第7版セミナー 第2部 ワークショップ
関西	11月13日(日)	ドーンセンター	15~20名	第1部 PMBOK®ガイド 第7版セミナー 第2部 (仮)PM実践研によるワールドカフェ
中国@広島	11月19日(土)	叡啓大学講義室	15~20名	第1部 PMBOK®ガイド 第7版セミナー 第2部 地域のAI活用事例紹介
九州	11月20日(日)	リファレンス キャナルシティ博多	15~20名	第1部 PMBOK®ガイド 第7版セミナー 第2部 「地域におけるPMスキル活用事例の共有」 or 「ワークショップ」

- 3) 「メンタルヘルスの対応について」
 - 4) 「ES - Earned Scheduleを理解する」
 - 5) 「PMBOK® 第7版改定ポイントの解説」等
- 興味のある方は、Facebook へのメッセージ送信、あるいは、pmpeople.hokkaido@gmail.comまで。

今後は、九州地区におけるSDGs関連の取り組み支援、定例会を行う予定です。

メンバー募集中です！少数精鋭で色々な話が聞けます。九州内外を問いません。これからコミュニティとして活性化させていきますので、お気軽にご連絡お待ちしております



3. 九州コミュニティ紹介

2019年の地域セミナーの参加者有志にて発足しました。人数は10名ですが、お住まいは福岡、熊本、鹿児島九州地方の他、兵庫などからも参加いただいています。

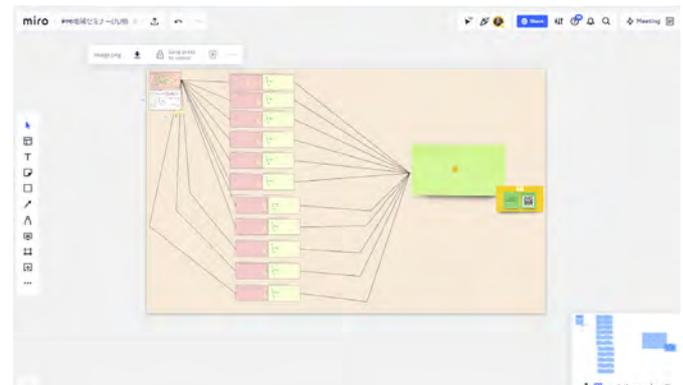
活動として、地域セミナーの企画・実施、月例会（近況報告、相談、テーマを決めて勉強会やWS）を中心に行っており、

昨年度の地域セミナーの様子

[第1部]
種子島にヨガを普及させた話



[第2部]
Miroを活用してコロナ禍におけるマネジメントのあり方をディスカッション

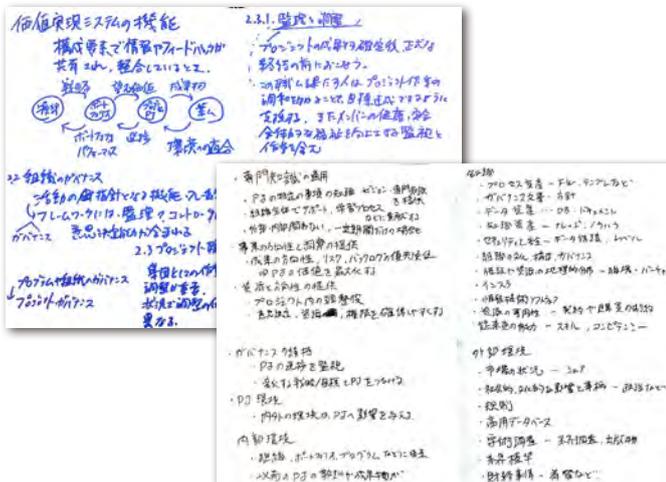


Best Practice and Competence / PM事例・知識

■委員会・部会活動内容紹介

2022年の最近数カ月は…

PMBOK®ガイド 第7版を参加者で読んでいます。



4. 入会方法、参考情報

地域サービス委員会定例会（全体会）は年間11回程度（月1回の開催 第1月曜日の夜を中心に設定）で、Zoom会議で運営しています。

その他、年1回のフェイスtoフェイス会議、PMI日本フォーラムでの発表（地域の活動などについて）を行っています。

連絡先はこちら ↓

<https://www.pmi-japan.org/session/cat381/local.php>

Activities / 支部活動

PMI日本フォーラム2022 結果報告

日 程	7月9日(土)～7月31日(日)
テ ー マ	共創社会をリードするプロジェクトマネジメント ～ Make Ideas a Reality ～
講演形態	リモート配信 <ul style="list-style-type: none"> ライブ配信：7月9日、10日 基調講演、招待講演、アカデミック講演の一部 ライブ配信の講演は、終了後にオンデマンドで聴講可能 オンデマンド配信：7月9日(土)～31日(日) 基調講演、招待講演、特別講演、アカデミック講演、研究報告講演
講演数	全60セッション <ul style="list-style-type: none"> 基調・招待講演……………12 特別招待講演……………1 研究報告講演(部会、法人SG)……………38 研究報告講演(スポンサー企業)……………2 アカデミック講演……………7



コロナ禍に加えてウクライナでの紛争が発生し、世界情勢の不確実性が一段と高まる中、PMI日本フォーラムはオンサイトとリモート配信のハイブリッド形式での開催の可能性を検討しつつも、3年連続で全講演をリモート配信することを早々に決定し、挙行了しました。

近年ますます高度化するプロジェクト・マネジャーへの期待・責務。これらに応じて今年も多方面にわたる講演をご用意した結果、無事盛況裡に終了することが出来ました。

講演いただいた方々をはじめ、協賛いただきました企業各社、アカデミック講演でボランティアとして運営にご協力い

ただいた皆さまに深く感謝申し上げます。

◆基調・招待講演

ライブ配信初日は、今年度で新任となったPMI日本支部端山毅片会長の挨拶に続き、PMI本部の Audit Committee Chair, Board of Directorsである Mr. Pablo Lledóから「Project Management Future & Evolving Project Economy」と題しビデオ録画による基調講演がありました。その後、11人の国内外の幅広い分野の識者から、アフリカやインドへの様々な形態での支援、大学・医療改革、エネルギー環境面でのSDGs等々、2日間にわたり示唆に富む講演をいただきました。

また、ライブ配信終了後も7月31日までの3週間にわたりエントリーも受け付け、基調・招待講演の講演録画をオンデマンド聴講いただけるようにしました。その結果、皆さまの聴講・研鑽機会の拡大を支援できました。

◆アカデミック講演

アカデミック講演は、ライブ配信で5セッション、オンデマンド配信で2セッションの講演をご提供しました。今年もPBLから人材育成モデル、産学地域連携など幅広いテーマ構成で、大学でのデジタルトランスフォーメーション、今後の展望、学内店舗でSDGsに取り組むプロジェクト演習と学生参加によるパネルディスカッション、2万人以上が通学するネットと通信制高校での事例、地域と産学連携の事例などに関するタイムリーな講演となりました。

人数制限のないオンラインの特性を活かし教育関係者以外にも幅広く参加していただき、ライブ視聴は100名、オンデマンド視聴回数は769回に上りました。

なお、企画・運営は教育国際化委員会が中心となり、アカデミック・スポンサーの大学関係の先生方にも協力をいただいで実施しました。

◆研究報告講演

研究報告講演は、2020年からの継続として各講演者に事前に作成いただいた講演ビデオ(21の部会・コミュニティ

Activities / 支部活動

■ PMI日本フォーラム2022 結果報告

から36セッション、2つの法人スポンサー・スタディグループから2セッション、フォーラム・スポンサー2社から2セッション計40セッション)をオンデマンドで配信しました。

PMI日本支部の各部会や法人スポンサー・スタディグループからは、AI、DX、SDGs、PMBOK®ガイド第7版、ディシプリンド・アジャイル、EVMなどをキーワードにした先端分野の研究のほか、組織・人材、心理的安全性など組織運営に関わる研究など、多岐にわたる成果が発表されました。

◆ 受講規模

全講演のオンデマンド聴講期間を7月31日まで設けた結果、最終的には820名を超える方々から受講申し込みをいただきました。

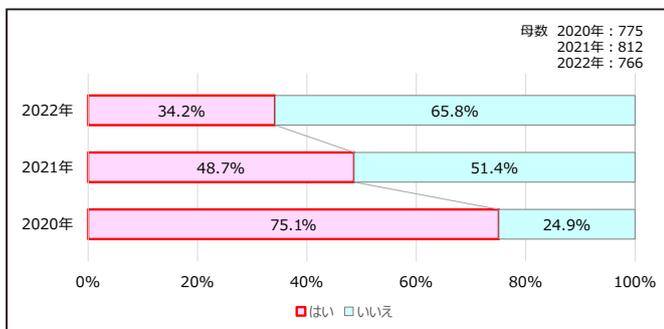
県別に見た受講地域は例年と同じ傾向でした。関東圏が圧倒的に多いものの、北海道から九州に至るまで多くの地域からの聴講いただきました。また、海外からは5ヶ国(米国2名、ラオス、韓国、インド、インドネシア)から6名の聴講がありました。

◆ アンケート結果

総合的には「大変良かった、良かった」が98%で、昨年と同様に高い評価をいただきました。

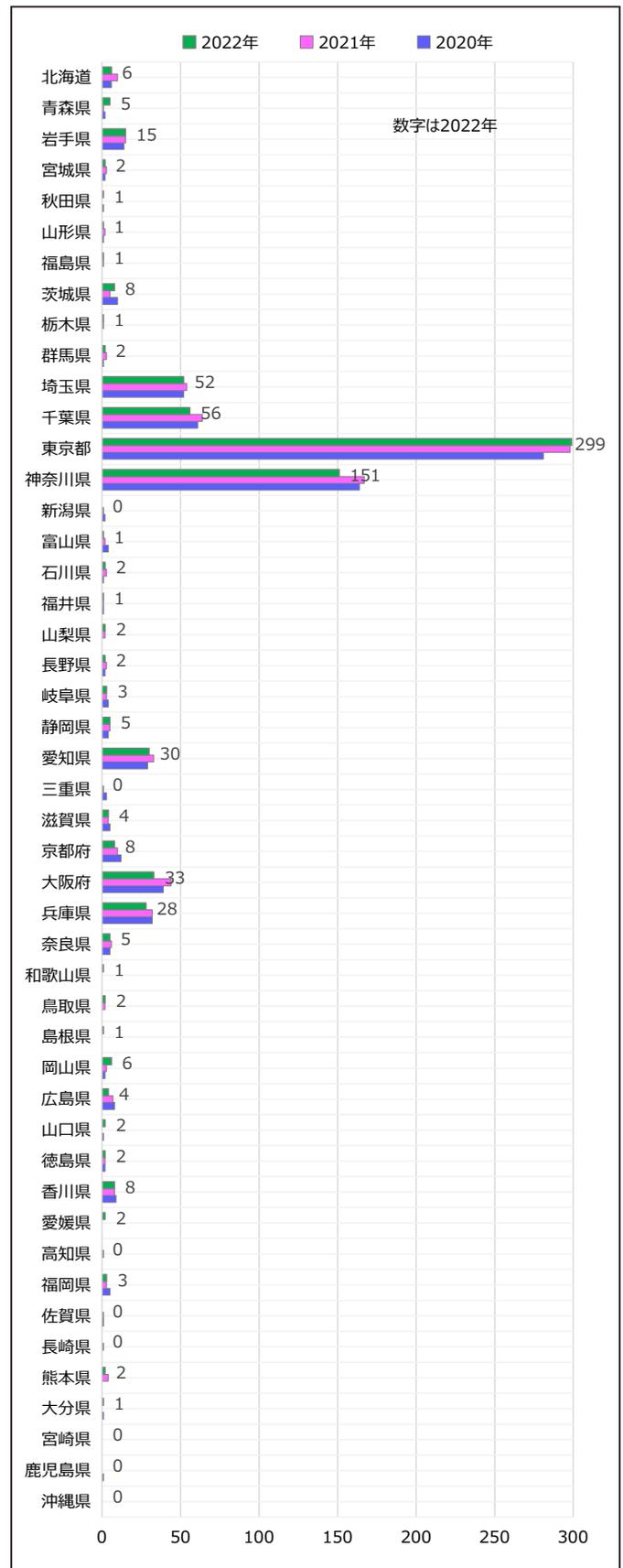
また、2020年から始めたオンデマンド配信を重宝いただいているようで、オンデマンド配信を聴講する方が急増しています。そのため、リアルタイム配信を聴講する方は2020年から今年にかけて3割ずつ減少しています。

図2 リアルタイム配信聴講の有無



コロナ禍が収束した後の開催方式については、「オンライン配信がよい」とする方が昨年より増加し7割を占め、「集合形式がよい」とする方は約9%に減少しています。

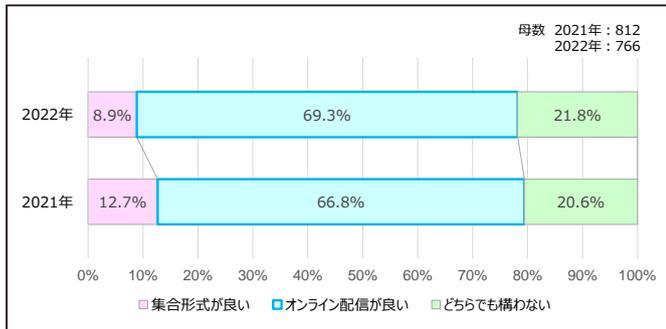
図1 受講地別人数



Activities / 支部活動

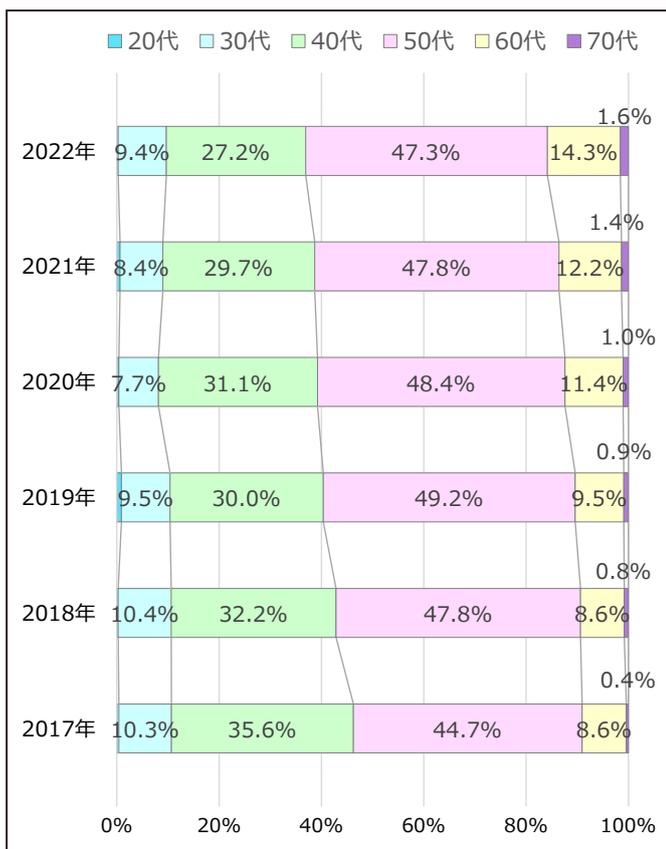
■ PMI日本フォーラム2022 結果報告

図3 コロナ禍収束後の望ましいイベント開催方式



この数年の参加者の年齢構成を見ると、年々高齢化が進んでいる中で、過去3年については30代が微増傾向にあることも伺えます。

図4 参加者の年齢層の割合



◆ おわりに

PMI日本支部で2021年6月に運用開始したイベント管理プラットフォーム『eventos』は、今や支部が企画・運営する全てのセミナーへ適用されており、聴講いただく皆さまにもようやく受け入れていただけたと考えています。

また、基調・招待講演の運営については、例年は数回にわたるリハーサルと当日運営にセミナープログラムのメンバーの方々に多大なサポートをいただき、本来の業務を抱える中で大きな負担をおかけしていました。今年は、運営方法の工夫・改善により、事務局メンバーだけでこなすことができました。

当日配信環境に関わる講師との事前折衝の不足から途中で数分間切れてしまう講演もありましたが、全体的には、大過なく終えることができました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

2023年も今年と同じく夏開催とし、7月8日(土)、9日(日)の2日間にライブ配信を予定しています。今後のコロナ禍の先行きを見据え適切な開催形態を検討するとともに、皆さまからいただいたご意見を参考に、より充実したフォーラムが開催できるよう改善を図っていきます。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。



Stakeholders / 法人スポンサー紹介

フラッグス株式会社



フラッグス株式会社は、企業のプロジェクトマネジメント能力向上をミッションに、顧客が自立的にプロジェクトを成功させる能力を持った企業となるため、人材・プロセス・システムを高度化するサービスを提供しています。

フラッグス株式会社が提供する、プロジェクトマネジメントDXクラウド「Flagxs」は、従前の「PDCA」サイクルを、「PDRI」(R=Report/I=Improve)サイクルとして再定義。ミッションクリティカル/大規模プロジェクトの成功に貢献する機能を提供し、プロジェクトマネジメントDXを大きく前進させます。

■ エンタープライズ向けプロジェクトマネジメントDXプラットフォーム

コンサルティングファームや金融系SIerで培った大規模プロジェクト経験を基に、これまで表計算ソフトやチケット管理ツール/チャット等、複数のツールを駆使したマネジメントをひとつのプラットフォームに統合。100名を超える規模/マルチベンダー/オフショア等の高難易度プロジェクトのマネジメント品質を大幅に向上させます。



Flagxsプラットフォームイメージ

■ プロジェクトマネージャーの経験不足をサポート

昨今、プロジェクトを推進するリーダーは、業務やテクノロジーの知見に加え、リーダーシップやマネジメントに関わるスキルを求められています。PMBOKやスクラム開発、大規模プロジェクト経験を基に構築した「Flagxs」を利用することで、プロジェクトマネージャーは体系的なマネジメントを理解し、「Flagxs」を活用したプロジェクト運営を通じて経験不足を補います。直感的でわかりやすいUI/UXでスムーズな現場への展開が可能です。



プロジェクト計画画面：画面上部に定量進捗が常時表示

■ マネジメント向け定量進捗をリアルタイムに表示

「Flagxs」が提供する「EVM」や「バーンアップ/バーンダウングラフ」等の「レポート機能」を使用することで、リアルタイムに定量的な進捗状況を確認することができます。また、「標準WBS構造」の適用により複数プロジェクトの進捗状況を同じ尺度で把握することが可能です。これまでレポート作成に費やしていた工数を大幅に削減し、現場～トップマネジメントまで「タイムリーな状況判断」に注力する環境を提供します。

Stakeholders / 法人スポンサー紹介

■フラッグス株式会社



バーンアップ/バーンダウングラフ：グラフの貼り付けで進捗報告が完了

■ウォーターフォールとスクラム開発をハイブリッドに管理

コンサルティングファーム出身者とテックエンジニアが徹底的に議論して構築した「Flagxs」は、「ウォーターフォール型プロジェクト」と「スクラム開発」のふたつの方法論のハイブリッド管理を可能にしました。スクラム開発チームのマネジメント業務をサポートすると共に、トップマネジメント向けにはプロジェクト全体の進捗状況が可視化されます。それにより両者が同じ目線でプロジェクト運営できるようになります。

■プロジェクトの標準化/資産化

「Flagxs」が提供する「標準WBS構造」と「レポート機能」を活用することでマネジメントプロセスの標準化を促進させます。プロジェクトの標準化は管理コストを低減させ、人材の流動性を高めます。また、「Flagxs」に記録されたWBSは、次に活かせるプロジェクトテンプレートになり、これまで使い切りだったプロジェクト実績が、将来のプロジェクトに向けた資産になります。

■ニューノーマル、プロジェクトを中心とした新しい働き方の提案

コロナをきっかけに、今後、リモートを中心とした、雇用に依存しない個人の専門性を活かしたプロジェクト型の働き方にシフトすることが予想されています。「Flagxs」は「クラウドネイティブ」且つ「多言語対応」により、全世界いつでも、どこでも、だれとでもプロジェクトを推進できるよう設計・構築されており、ニューノーマル、プロジェクトを中心とした新しい働き方の実現をご提案します。

第13回Japan IT Week 秋にてブースを出展いたします

2022年10月26日(水)～28日(金)に幕張メッセで開催される「第13回Japan IT Week 秋」に出展いたします。プロジェクトマネジメントに関するご相談や弊社プラットフォーム「Flagxs」の実際のデモをご覧いただけますので、お時間のあられる方はぜひ弊社ブースにお立ち寄り下さい。

PM Calendar / PMカレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
新型コロナウイルス拡大防止の観点から、全てのセミナーをリモート化して実施しています。
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中・準備中】

■ PMI日本支部関連セミナー/ワークショップ

- **ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ 2022**
 - 日時：10月23日(日) 13:30～16:30
 - 形式：リモート開催
 - 2.75PDU、ITC実践力ポイント7時間分
- **プログラムマネジメント実践ワークショップ (DX編)**
 - 日時：11月4日(金) 9:30～18:00
 - 形式：リモート開催
 - 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

■ PMI日本支部関連イベント

- **PMI Japan Festa 2022**
 - 形式：リモート開催
 - 日時：2022年11月12日(土)～30日(水)
 - 講演のリアルタイム配信：2022年11月12日(土)、13日(日)
 - 講演のオンデマンド配信：2022年11月12日(土)～30日(水)

【月例セミナー開催について】 2022年度の月例セミナーは、下記の日程で行います。

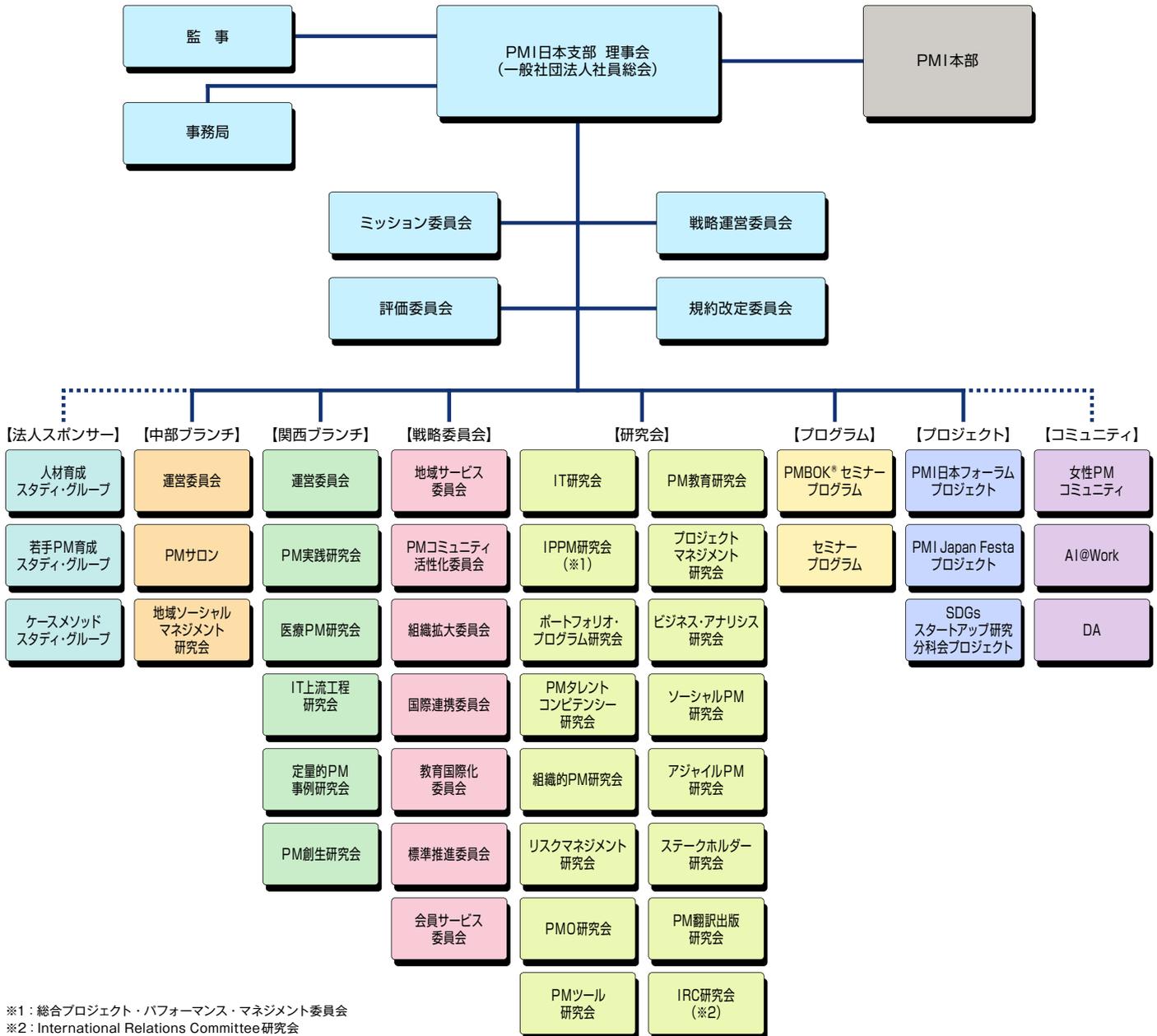
【日程(予定)】	(2022年1月22日(土) 新春特別セミナー)
①	2022年2月18日(金)
②	2022年3月18日(金)
③	2022年4月16日(土)
④	2022年5月14日(土)
⑤	2022年6月17日(金)
⑥	2022年8月20日(土)
⑦	2022年9月16日(金)
⑧	2022年12月16日(金)

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2022年9月現在)



Fact Database/データベース

■ 理事一覧 (2022年9月現在)

会長	端山 毅	株式会社NTTデータ
副会長	麻生 重樹	日本電気株式会社
副会長	浦田有佳里	国立研究開発法人情報通信研究機構/ナショナルサイバートレーニングセンター
副会長	奥澤 薫	KOLABO
副会長	斉藤 学	スカイライト コンサルティング株式会社
副会長	森田 公至	キンドリルジャパン株式会社

(以下、五十音順)

理事	有坂 寿洋	株式会社日立アカデミー
理事	稲葉 涼太	株式会社Flexas Z
理事	井上 雅裕	慶應義塾大学/芝浦工業大学/ISAL
理事	小川原陽子	日本アイ・ビー・エム株式会社
理事	鬼東 孝則	Ridgelinez株式会社
理事	金子啓一郎	三菱電機株式会社
理事	杉原 秀保	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
理事	千葉 昌幸	株式会社三菱総合研究所
理事	中村 亜子	株式会社パーソル総合研究所
理事	永合由美子	東京大学/(特非)日本女性技術者科学者ネットワーク/(特非)女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト
理事	藤井 新吾	モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
理事	藤原 慎	株式会社NTTデータユニバーシティ
理事	松本 弘明	株式会社オプティム/株式会社ユラスコア
理事	水井 悦子	エンパワー・コンサルティング株式会社
理事	保井 俊之	広島県公立大学法人/叡啓大学
理事	山本 智子	川崎医療福祉大学
理事	除村 健俊	サイバー大学/芝浦工業大学
理事	渡辺 敏之	日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ)
監事	片江 有利	株式会社システムコストマネジメント
監事	三嶋 良武	エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社
監事	山中 良文	JFEシステムズ株式会社

■ 最新の会員・資格者情報 (2022年8月31日現在)

会員数 (人)	
PMI 本部	日本支部
683,395	5,606

資格保有者数 (人)												
PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	PfMP®	PMI-PBA®	CAPM®	DASM®	DASSM®	DAC®	DAVSC®
世界全体	日本在住											
1,271,023	41,685	6	15	20	350	11	17	427	31	41	9	2

■ 行政スポンサー (2022年9月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市

■ 法人スポンサー 一覧 (111社、50音順、2022年9月現在)

- TIS株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノンITソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTTデータ
- プラネット株式会社
- 日本ユニカ・システムズ株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ヒューレット・パッカード株式会社
- 株式会社アイ・ティー・ワン
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTTデータ関西
- BIPROGY株式会社
- JBCC株式会社
- 株式会社パーソル総合研究所
- 日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立アカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱電機ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- 株式会社NTTデータ アイ
- 日鉄ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮グローバル株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- 株式会社JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- NDIソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社シグマクシス
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタシステムズ
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社ワコム
- NCS&A株式会社
- 日立物流ソフトウェア株式会社
- SCSK株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- SOMPOシステムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS&ADシステムズ株式会社
- リコージャパン株式会社
- SBテクノロジー株式会社
- 株式会社インテージテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルート
- アクシスインターナショナル株式会社

Fact Database / データベース

- JFEシステムズ株式会社
- アドソル日進株式会社
- キヤノン株式会社
- ビジネスエンジニアリング株式会社
- 大日本印刷株式会社
- サイフォーマ株式会社
- I&Jデジタルイノベーション株式会社
- 株式会社NTTデータ・ニューソン
- キーウェアソリューションズ株式会社
- NECソリューションイノベータ株式会社
- 株式会社パスコ
- アベールソリューションズ株式会社
- 株式会社パデコ
- MIデジタルサービス株式会社
- エス・エー・エス株式会社
- Wrike Japan株式会社
- 明治安田システム・テクノロジー株式会社
- テルモ株式会社
- トップラン・フォームズ株式会社
- ペルノックス株式会社
- キンドリルジャパン株式会社
- 株式会社ヒューマンテクノシステム
- 株式会社ITプレナーズジャパン・アジアパシフィック
- 富士電機株式会社
- KDDI株式会社
- フラッグス株式会社
- 株式会社JQ

■ アカデミック・スポンサー 一覧 (52教育機関、50音順、2022年9月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院 芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学 経済科学部
- 北海道大学大学院 情報科学研究科
- 山口大学大学院 技術経営研究科
- 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 大学院情報科学研究科
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 大阪大学大学院 工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学 産学・地域共創センター
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究センター
- 北海道情報大学
- 山口大学 工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科 および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 飯島研究室
- 就実大学 経営学部 経営学科
- 神戸女子大学 家政学部家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 敷田研究室
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院 イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 生命機能科学研究センター
- 岡山大学 教育研究プログラム戦略本部 戦略的プログラム支援ユニット (URA)
- 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
- 明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
- 中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
- 独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校
- 愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
- 東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
- 東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 サービスシステムデザイン研究室
- 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部情報文化学科
- 地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセーター病院 研究センター
- 中央大学 国際情報学部
- 福岡工業大学 情報工学部システムマネジメント学科
- 学校法人 角川ドワンゴ学園 経験学習部
- 第一工科大学 東京上野キャンパス
- 公立大学法人 大阪 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター
- 東京理科大学 経営学部 国際デザイン経営学科 森本研究室

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

■ 新任理事7名のご挨拶

2022年に着任した新任理事7名（有坂寿洋、小川原陽子、永合由美子、保井俊之、渡辺敏之、稲葉涼太、鬼東孝則）からの挨拶を掲載しました。

■ 千葉工業大学における学生へのCAPM® 資格取得計画

学生へのCAPM® 資格取得に向けて対策講座を設け、過去数年にわたり多くの合格者を輩出している千葉工業大学。その活動内容を、創造工学部デザイン科学科の西田絢子准教授からご紹介いただきました。

■ 委員会・部会活動内容紹介

2022年8月31日(水)に行われた「部会紹介セミナー」から、「地域サービス委員会」の活動内容についてご紹介しました。

■ PMI 日本フォーラム 2022 結果報告

2022年7月9日から31日まで、「PMI 日本フォーラム 2022」を全面リモート形式で開催し、今年も盛況裡に閉幕しました。昨年にも増してオンデマンド聴講の活用が顕著になった今年の結果概要を紹介しました。

■ 新規法人スポンサー紹介

2022年7月に法人スポンサーに加入されたフラッグス株式会社様から自社紹介をいただきました。

ニューズレター編集担当から読者の皆さまへお願い

皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

2022年11月12日(土)から30日まで開催する「PMI Japan Festa 2022」。今年も全面リモート開催で実施します。PM Award 2022の最優秀賞を受賞者のほか、2022年 PMI Future 50 の受賞者、小惑星探査機はやぶさ2プロジェクトのPM津田雄一さまなど、今年も多彩な講師陣をお招きしています。どうぞお楽しみに！

<https://pmi-japan.eventos.tokyo/web/portal/426/event/5477/>



PMI 日本支部ニューズレター Vol.92 2022年9月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)